

令和元年度 宮の原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 豊かな人間性を持ち、主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成
・目指す児童像 「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重の精神を基盤とした全教育活動を通して、学校教育目標の具現化を進め、児童一人一人の有する能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うとともに、保護者及び地域住民との連携・協働により、地域とともにある信頼される学校づくりを推進する。

- ・学びのある学校……豊かな体験を通して、自信をもち自立した子どもを育む学びのある学校
- ・仲間のいる学校……友達と活動し、共に生きる喜びを感じる仲間のいる学校
- ・楽しい学校……夢の実現を目指して努力する子どもを支援する、楽しさのあふれる学校
- ・信頼される学校……家庭、地域と協働して子どもを育む、地域に開かれ信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 全教職員による目的の共有化、OJTを意識した勤務と主体的な学校経営への参画促進
- (2) 指導力向上のための研修の充実、行動規範の徹底と危機管理等に関する意識の向上、働き方改革の推進
- (3) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育の実践《けやきプラン2018》
- (4) 地域とともにある学校づくりと地域に根差した取組の推進
- (5) ○小中一貫教育の推進（地域学校園としての研究推進）

【一条地域学校園教育ビジョン】 基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

- (1) 各教育関連法に従うとともに、第二次「教育推進計画」「学校教育スタンダード」を踏まえ、本校教育目標が具現化されるよう調和と統一のある教育課程を編成する。
- (2) 授業時数については、国及び市の標準時数を確保しながらも、学校行事その他の部分においては、新天皇即位に伴う休業日増や創立周年行事の年度というイレギュラーな年と考え、教育課程の実施にあたっては、柔軟に対応するものとする。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・「宮小けやきプラン2019」の推進による特色ある教育活動の推進

○「小中一貫教育と地域学校園」の取り組みの推進

【学 習 指 導】

- ・自分の思いや考えをもち、伝え合い学び合うことができる児童の育成

【児 童 生 徒 指 導】

- ・人とのかわりを通して、決まりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自らの健康と安全に関心をもち、進んで体力づくりに励む児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・学習意欲を向上させるために、魅力のある学習課題の設定及び提示の仕方を工夫する。 ・学習活動の中に話合いの機会を増やし、互いに学び合い、深め合う良さを理解させ、積極的に話合いに参加できるようにする。 ・安心して発表できる、認め合い、励まし合う教室環境作りに努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% ・児童と保護者の肯定的回答の割合がほぼ一致しており、学校でも家庭でも進んで学習に取り組んでいると言える。 ・魅力ある学習課題提示及び提示の仕方を工夫したり、ペア学習やグループ学習などを取り入れたりして、児童が自分の考えをもち、相手に伝えることができるような授業展開に努めた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して、様々な学習活動の中で話合い、伝え合いの場面を設定していくと共に、児童が自分から「話したい」「伝えたい」と感じるような学習の展開を工夫していく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・道徳の時間を核として、教材や物語の人物の行動や心情から思いやりの心の大切さを感じたり考えたりする機会を増やす。 ・日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりしていく。 ・児童がお互いのよさを認め合い、相手の気持ちや状況を考えて行動できる人間関係と環境作りに努める。 ・教師自身がモデルであることを意識し、児童に温かい心で接する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% ・学校課題で道徳の授業研究を推進し、児童の心の成長につながった。 ・学級ごとに親切な行いの発表や紹介、お互いのよさを認め合う活動などを実践し、よりよい人間関係を築き、相手を思いやる気持ちを育むことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、道徳の時間を核として思いやりの心を育てていく。 ・学級ごとに実態に応じた活動を継続して行い、よりよい人間関係作りと思いやりの心の育成に取り組む。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、望ましい行動習慣の形成に努める。 ・生活目標について全職員で共通理解しながら継続的に指導すると共に、振り返りカードを活用して指導の充実を図る。 ・「生活目標ふり振り返りカード」を活用することで、さらに意識付けを図る。 ・「宮小キラリ賞」を設定し善行を奨励する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 85.2% ・「宮小こどものきまり」「学びのマナー」と関連した生活目標を設定し、共通理解を図って指導に取り組んだ。 ・望ましい行動を実践した児童を称賛し、継続的な指導と児童の意識向上に努めた。 ・自分自身についての設問ではないため、マナーやきまりを守れない児童がいることを気にかけている児童がいると推察される。 【次年度の方針】 ・「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」が児童の実態に即しているか、整合性が図られているかを再確認し、共通理解を図り日常的に活用していく。 ・生活目標を守ろうという児童の意識を高める生活目標の振り返りの方法を検討する。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・小中学校・家庭・地域と連携した「みやのはらあいさつ運動」を継続し、あいさつの定着を図る。（「みやのはらあいさつの日」毎月1日） ・教職員が率先してあいさつをする。 ・道徳や特別活動を中心に、発達段階に応じて、具体的に指導する。 ・児童会のあいさつ運動を実施し、意識を高めるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.4% ・児童会のあいさつ活動などにより、児童の肯定的回答率は高い。 ・学校生活の様子から、元気なあいさつが行き交う状況とは言えず、さらに工夫した活動を取り入れていく必要性を感じる。 【次年度の方針】 ・今年度のあいさつ運動の継続とともに、学年に応じたあいさつの仕方（教師や来客に対しての）について学級活動などで指導し、教職員も率先してあいさつをしながら、より意識付けを図っていく。 ・さらに児童が自分からあいさつをしたくなるような活動を工夫する。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%	・学習や活動において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって努力し続けることができるようにする。 ・自分のよさを伸ばしたり、苦手を克服したりするために自分なりの目標を設定して努力できるように励ます。 ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し、共に高め合い、励まし合いながら取り組むことができるようにする。 ・受容的な態度や温かいコメントを心掛け、児童が学びたくなる教室環境を整える。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% ・学習や活動において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって努力し続けることができるようにした。 ・画一的ではなく、自分なりの目標を設定する場面をつくり、努力できるように励ました。 ・共に高め合い、励まし合いながら取り組むことができるように、学び合う場、協力し合う場を意図的に設定した。 【次年度の方針】 ・朝の学習のステップアップタイムや習熟度別学習などで、スモールステップで、できたという成功体験を増やしていく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%	・「食育だより」や「保健だより」を発行して、児童や保護者に健康についての意識付けを図る。 ・児童委員会を中心にイベントを行ったり、養護教諭や学校栄養職員が保健指導や食育指導に積極的に関わったりすることにより、健康について身近に考える機会を増やす。 ・月1回の登校指導や、週1回の下校指導、また、定期的な登校班長会議を行い、継続的に安全な登下校の指導を行う。 ・地震・火災、不審者対応、竜巻等あらゆる災害を想定した避難訓練を行い、安全な生活の意識付けを図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.3% ・「食育だより」や「保健だより」が工夫され、児童及び保護者の健康への意識の高まりにつながった。 ・給食委員や保健委員の主体的で工夫された活動が実践された。 ・避難訓練などへの取組も真剣で、安全に対する意識が高い。 【次年度の方針】 ・今年度同様、各種たよりの発行、児童会の活動等、様々な角度から健康への意識向上を働き掛けていく。 ・安全教育を充実させ、児童の安全への高い意識を継続していけるようにする。

A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。 【数値指標】全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%	・学問、スポーツ、芸術など様々な分野で活躍している人の生き方を紹介し、目を向けさせ、夢や目標をもたせる。 ・委員会活動、清掃活動、学級での当番や係活動などを通して、働くことの喜びや役割を果たす大切さやを味わわせる。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% ・道徳や国語、社会科等の教材、日常の話題などから、様々な分野で活躍している人の生き方に目を向けさせ考える機会を増やすようにした。 ・様々な活動の中で、一人一人が役割をもち、働くことの喜びや責任を果たすことの大切さや達成感を味わえるようにした。 【次年度の方針】 ・オリンピックやパラリンピックの話題を積極的に取り上げ、夢や目標に向かって努力する大切さなどについて考える機会をもつようにする。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・スモールトークを積極的に活用し、教師とALTのやり取りから教師と児童とのやり取りへと繋げていく授業づくりをする。 ・児童同士が積極的に英語を使ってコミュニケーションを図れる場面を設定する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 86.0% ・コミュニケーションツールボックスを掲示し、コミュニケーションを進んで図れるようにしたことで、児童はALTとのやり取りや、児童同士の英語を使ったやり取りを積極的に行うことができた。 【次年度の方針】 ・スモールトークを積極的に活用し、教師とALTのやり取りから教師と児童とのやり取りへと繋げていく授業づくりをする。 ・児童同士が積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ったり、発表したりする場面を設定する。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	・生活科・社会科・総合的な学習における校外学習、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。 ・宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際には、宇都宮の良さを知らせるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 85.2% ・2年生では、町探検を通して地域の方と触れ合ったり、自分の住む地域に興味をもったりすることができた。3年生では、清原工業団地や飛山城址公園への校外学習を通して、宇都宮の地形や産業に触れ興味を深めることができた。 ・市で行われるイベントや行事などへの参加を積極的に働き掛けるとともに、宇都宮の良さを知らせるように心掛けた。 【次年度の方針】 ・総合的な学習での宇都宮学の実施、また、生活科・社会科・総合的な学習における校外学習、地域人材との協力の中で、地域や宇都宮に興味をもてるよう学習を進める。 ・宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際には、宇都宮の良さを知らせるようにする。

A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・児童がI C T機器や図書資料を効果的に使える授業づくりを行い、児童が機器や図書に触れる機会を設定する。 ・教職員がI C T機器や図書資料を授業の中で効果的に使用することで、学習効果を高めていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 83.4% ・I C T機器や図書資料を効果的に活用する授業計画をしたり、積極的に学校図書館司書業務嘱託員の授業への参画を図ったりした。 ・授業で、I C T機器を使用したり、図書資料を活用したりして児童が意欲的に学習できるようにした。 【次年度の方針】 ・児童がI C T機器や図書資料を効果的に使える授業づくりを行い、児童が機器や図書に触れる機会を設定する。 ・プログラミング学習を中心に、教職員がI C T機器等を授業の中で効果的に使用することで、学習効果を高めていく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒地域住民の肯定的回答 85%以上	・高齢者に対する感謝の気持ちをもてるよう、低学年の生活科での昔遊びや高学年の家庭科での手縫い等、教えていただく機会を授業の中に設定する。 ・道徳の授業を通し、高齢者に対する思いやりの心をはぐくむ指導をしていく。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答 100.0% ・低学年の生活科での昔遊びやふれあい会、高学年の家庭科でのミシン操作等で、高齢者の方と触れ合い交流する機会を設定した。 ・地域の方への感謝の手紙を書く活動を通して、思いやりの心を育むことができるように指導した。 ・道徳の授業を通して、各学年で高齢者に対する思いやりの心をはぐくむ指導を実施した。 【次年度の方針】 ・高齢者に対する感謝の気持ちをもてるよう、低学年の生活科での昔遊びや高学年の家庭科での手縫い等、教えていただいたり交流したりする機会を授業の中に設定する。 ・道徳の授業を通し、高齢者に対する思いやりの心をはぐくむ指導をしていく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	・休み時間ごとに教室の電気を消す、水を出しっぱなしにしないなど、身近にできるエコ活動を推進する。 ・各委員会活動を通して、牛乳パックのリサイクルや古紙回収などを行い、環境保全の意識を高めていく。 ・生活科、理科、道徳の授業を通して動植物の大切さを指導していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 88.2% ・各学級で、係活動として節電・節水など身近にできるエコ活動を実践できた。 ・給食委員会の牛乳パック回収や環境委員会の古紙回収・エコキャップ回収などを全校に周知させることで、全校の意識を高められるよう取り組んだ。 ・生活科、理科、道徳の授業の中で、動植物を大切にしようとする意識を高められるような授業づくりを心掛けた。 【次年度の方針】 ・休み時間ごとに教室の電気を消す、水を出しっぱなしにしないなど、身近にできるエコ活動を推進する。 ・各委員会活動を通して、牛乳パックのリサイクルや古紙回収などを行い、環境保全の意識を高めていく。 ・各教科の授業を通して動植物の大切さを指導していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）や外国人児童（生徒）等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・校内での実態調査や校内支援委員会で上がってきた児童に対して、情報を共有するとともに、個別の支援を行う。 ・読み書き計算については、MIM、ステップアップタイムなどを活用し、つまずきに対応する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% ・校内での実態調査や校内支援委員会で上がってきた児童に対して、情報を共有し、家庭との連携を図り、支援の必要な児童に寄り添った個別の支援を行った。場合によっては、かがやきルーム、特別支援学級の活用を図った。 ・読み書き計算については、MIM、ステップアップタイムなどを活用し、つまずきに対応した。かがやきルームでは、本人に合った課題を宿題とすることで、学習への意欲が高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き、校内での実態調査や校内支援委員会で上がってきた児童に対して、情報を共有するとともに、個別の支援の充実を図る。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心にしどころしてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めると共に、いじめは許されない行為であることを徹底できるよう、様々な機会を生かして継続的な指導を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.8% ・年4回のいじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活を送れるように、絶えず指導に当たった。 ・いじめにもつながる情報モラルに関して、スマートフォンや携帯電話の使い方等についての児童指導だよりを配付し、各学級において実態に応じた指導を行ったほか、保護者への啓発を行った。 【次年度の方針】 ・いじめはいかなる理由があっても許されないという意識をもたせるために、様々な機会を生かし継続的な指導をする。 ・スマートフォンや携帯電話の使い方等については、各学級、学年において実態に応じた指導を行う。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・日常生活の中で自己有用感を感じられるように配慮する。 ・学級に居場所感があり、安心して学校生活を送れるように温かな言葉かけを意識したり教育相談を活用したりする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.9% ・日常生活や学習場面の中で自己有用感を感じられるような活動を意識した。 ・学級に居場所感があり、安心して学校生活を送れるように温かな言葉掛けを意識したり教育相談を活用したりした。 ・行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりした。 【次年度の方針】 ・引き続き、日常生活や学習場面の中で自己有用感を感じられるような活動を意識する。また、学級に居場所感があり、安心して学校生活を送れるように温かな言葉掛けを意識したり教育相談を活用したりする。行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりする。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）や外国人児童（生徒）等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% ・本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにした。 B 【次年度の方針】 ・引き続き、本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにする。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・縦割り班活動等の充実や、児童会主体のあいさつ運動・いじめゼロ運動、スポーツ大会実施等を通して、主体的に「人とかかわる力」を育てる。	【元年度の達成状況】 児童の肯定的回答 92.4% ・縦割り班活動（なかよしタイム）やあいさつ運動、いじめゼロ運動などを通じ、異学年交流などにより「人とかかわる力」を伸ばす児童が多く見られた。 B 【次年度の方針】 ・縦割り班活動等の充実や、児童会主体のあいさつ運動・いじめゼロ運動等を通して、主体的に「人とかかわる力」を育てる。 ・日頃から、児童に寄り添う指導や支援、声掛けを意識し、安心して学校生活を送れるようにする。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、勉強を分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・とちぎっ子学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した内容の指導の工夫を行う。 ・全校体制で、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、児童一人一人が分かる授業を目指す。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.5% ・前年度からさらに0.4%肯定的回答率が増えた。授業では、本時のめあてを青、まとめを赤で囲むことを継続し、課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し、振り返りを行うなどして、「分かる授業」の展開に努めてきた。 B 【次年度の方針】 ・4月に行われる、とちぎっ子学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した内容の指導や形態の工夫を継続して行う。 ・児童の発達段階及び実態に応じて、習熟度別、少人数、T・T等学力向上実践加配が有効に指導に関わることが出来る授業を計画的・継続的に実践していく。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。 ・個々の役割と責任を明確にした上で、同僚に対する気配りをしながら、相互に協力して業務を行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、各主任を中心にOJTを実施できた。 ・個々の役割を行うだけではなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 B 【次年度の方針】 ・校務分掌の主務者を中心に、それぞれの仕事の役割や責任を明確にして、業務に当たっていく。 ・学校業務に関して、同僚に対する気配りをしながら、相互に協力して業務を進める。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	・電子掲示板による連絡、会議資料のデジタル化により、業務の効率化を図る。 ・教職員自身が出退勤管理を適正に行うとともに、月1回以上のリフレッシュデーを設け、定時退勤を推進する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 87.5% ・電子掲示板は情報提供の手段として日々活用されており、打合せの時間を取らなくても職員の共通理解を図ることができている。また、会議資料のデジタル化も定着してきており、資料の印刷・配付のための時間が省略され業務の効率化になっている。 ・教職員自身が毎日出退勤時刻を入力することで、勤務時間の実態を自分自身で正確に把握することができ、勤務を見直すきっかけとなった。また、毎月リフレッシュデー（定時退勤日）を指定していたが、勤務の実態に合わせリフレッシュウィーク（1週間の中から定時退勤日を選択）にしたことにより、自分の都合に合わせて定時退勤日を決定することができるようになり、実効性のある取組となった。 【次年度の方針】 ・電子掲示板による連絡や会議資料のデジタル化を推進し、業務の効率化を図る。 ・教職員自身が出退勤管理を適正に行い、時間外勤務の減少に努める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	・地域や学校園と連携した「あいさつ運動」を継続して行い年3回小中合同で実施する。 ・6年児童が中学校の合唱コンクールに参加したり、クリーンアップキャンペーンに中学生が来校し、地域住民や保護者、小学生とともに校庭清掃を実施したりして、小中が連携した取組を実施する。 ・学習や体力の向上、図書館教育、食育など様々な領域において学校園で取り組んでいることを児童に還元し、周知に努める	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.8% 教職員の肯定的回答 100.0% ・中→小への乗り入れ授業の実施回数が減ったが、効果はあった。 ・6年児童の中学校の合唱コンクールへの参加、クリーンアップキャンペーン、あいさつ運動など、小中が連携した取組を実施したことで、交流を推進することができた。 【次年度の方針】 ・小中合同あいさつ運動がさらに充実した活動になるよう、中学校生徒会との連携を強化していく。 ・6年児童が乗り入れ授業や合唱コンクール、中学校訪問等を通して、中学校への理解を深め、明るい希望をもって進学できるよう努める。 ・地域学校園の各部会での決定事項を教職員間で共通理解を図り、指導に活かす。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	・あいさつ運動やクリーンアップキャンペーン、地区文化祭、防災訓練等、地域と相互に協力しながら教育活動を行う。 ・地域協議会やPTA理事会等でそれぞれの意見を吸い上げ、児童の指導や教育活動の向上に活かす。 ・学習内容に応じて、地域人材や企業等を活用した授業を展開する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.9% ・あいさつ運動やクリーンアップキャンペーン、地区文化祭、地区防災訓練等、地域と相互に協力しながら教育活動を行うことができた。 ・学習内容に応じて、地域人材や企業等を活用した授業を計画的に実践することができた。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動や地区文化祭、地区防災訓練などの各行事において、地域と相互に協力しながら、より充実した教育活動を計画的に実践していく。 ・地域協議会やPTA理事会において学校からの情報を発信し、また地域や保護者の意見を吸い上げ、協力体制を整備していく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・地域コーディネーターを活用して、教育活動全般にわたり協力を得られる人材を増やしたり、学校園で協力して人材確保に努めたりする。 ・街の先生・地域の人材の参画を得た授業や、企業の出前講座等を積極的に行い、地域の教育力をさらに学校に取り入れていく。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 95.3% ・地域コーディネーターが窓口になり、地域と学校が連携・協力した活動を実施できた。 ・地域の人材の参画を得た授業や、企業の出前講座を積極的に実施できた。 【次年度の方針】 ・街の先生や地域の人材を発掘し、授業に取り入れられるよう計画・連絡・調整していく。 ・地域や企業等と連携・協力して行った教育活動を保護者・地域にも積極的に情報発信していく。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・教職員による校内施設等の定期的な安全点検を行い、結果の共通理解を図るとともに、不備な点は早急に対処する。 ・校内や学校周辺で危険が予想されるときには、メールや学校だより等により周知を図るとともに、学校の取組を積極的に発信する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 93.7% ・安全点検の日を年間計画に位置付け、全職員で点検場所を分担し、計画的・組織的に施設設備等の点検を行ってきた。清掃時など日常生活の中でも危険な箇所はないか目を配り、早期発見に努めてきた。また、保護者や地域からの情報も安全対策に有効であった。 - 児童指導が必要な時には、早急に共通理解を図り、学級指導や全校指導で対応してきた。施設設備等の不備については、学校業務機動班や業者、行政に依頼し対応してきた。しかし、予算を伴う修繕については、時間がかかったり対処が済んでいなかったりする事案があった。 ・緊急性の有無や連絡の内容により、①メール配信、②文書配付、③メールを配信しさらに文書も配付する、を使い分けて保護者や学校関係者に周知するとともに協力を要請してきた。また、避難訓練や交通安全教室などを学校ホームページに掲載し、安全に関する取組を紹介してきた。 【次年度の方針】 ・計画的・組織的な安全点検を継続するとともに、日常の点検や保護者や地域からの情報を基に適切な安全指導・安全な環境整備を行っていく。 ・危険な状況に対しては、保護者や学校関係者に情報を的確に周知するとともに協力を依頼し、安全確保に努める。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・ICT機器を学習内容に応じて活用しやすいように整備する。 ・児童や教師のニーズ、学習や発達段階に応じた図書を整備していく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 95.8% ・学年の実態や発達段階に応じて、ICT機器や図書等を積極的に活用できた。 【次年度の方針】 ・ICT機器や図書を活用した授業を計画的に実施し、実践内容や教育的効果を積極的に発信していく。

本校の特色・課題等	B 1 「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校経営の充実を図る。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校で課題となっていることを積極的に説明し、協議会の意見を反映している。」 ⇒地域住民の肯定的回答 85%以上	・学校で課題となっていることを積極的に説明し、協議会の意見を反映するとともに、一体となって課題解決にあたる。 ・地域人材を活用したより効果的な体験活動を実施し、学校教育の充実に努める。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答 100.0% ・地域協議会を年4回開催し、学校経営方針や取組等を説明したり、協力や要望を伝えたりすることにより、地域と学校が連携・協力した活動を実施することができた。また、授業参観や給食視察を通して気付いたことや地域における児童の日常の様子などから気付いたことなど、貴重な意見を聞くことができ、教育活動に反映することができた。 ・あいさつ運動や登下校指導、地区内の環境点検等で、地域の方々の積極的な協力を得ることができた。 ・地区防災訓練、クリーンアップキャンペーン、あいさつ標語コンクールなど、地域と一体となった活動を実施し、児童は充実した学校生活を送ることができた。 ・地域人材を活用して、生活科や家庭科などにおける学習支援や読み聞かせや地域との交流など効果的な体験活動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・協議会と連携を図りながら各活動を見直し、学校教育がさらに充実するよう努める。
	B 2 児童は、学校生活の中で、みんなのために、進んで活動したり働いたりしている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、お手伝いや係の仕事、ボランティア活動などをしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・ボランティア活動について、児童会が主体となって朝会で呼びかけたり、活動の様子を学校だよりや学年だより、地域学校園だよりなどで紹介したりして、意欲を高めていく。 ・道徳の時間等でボランティアの意義や助け合うことの大切さを教え、日常生活での実践の場で指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.2% ・読み聞かせや落ち葉掃きなどのボランティア活動があるときには、各学級で積極的に呼び掛けを行い、啓発を図ることができた。 ・ボランティア活動の様子を各種たよりで紹介したり、参加児童に感謝状を渡したりすることで、意欲を高めることができた。 【次年度の方針】 ・ボランティア活動について、児童会が主体となって朝会で呼び掛けたり、活動の様子を学校だよりや学年だより、地域学校園だよりなどで紹介したりして、意欲を高めていく。 ・道徳の時間等でボランティアの意義や助け合うことの大切さを教え、日常生活での実践の場で指導する。

B 3 家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、学年の目標時間（学年×10+10分）以上宿題や自主学習をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	・毎日の宿題で基礎学力の定着を図る。 ・学年ごとに、発達段階に応じた自主学習の内容と方法を具体的に示し指導する。 ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層の理解や協力を得られるように努める。 ・全校で共通した形式の家庭学習カードを活用して指導する。 ・「家庭学習強調週間」を実施し、取組の徹底・充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 85.5% ・「家庭学習の手引き」に基づいて、家庭学習の内容と方法を具体的に示し、個に応じた指導を行ったが個人差が見られた。 ・学校全体として音読と計算を毎日宿題にし、家庭学習の習慣を身に付けられるように指導した。 ・「家庭学習強調週間」を実施し、取組の徹底と充実を図った。 B 【次年度の方針】 ・今年度同様、家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、継続指導の重要性を伝えるとともに、引き続き協力を得られるように努める。 ・引き続き「家庭学習強調週間」を実施する。 ・学習に向かう環境作りとして、ゲームやテレビの時間など、家庭での生活習慣の改善を図る。
B 4 児童は、本をよく読んでいる。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは、本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のおアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 ・頑張る学校プロジェクト「宮小本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 ・朝の読書15分間の充実、担任による読み聞かせなど、本に親しむ機会を増やすとともに様々な活動で図書室を有効に活用する。 ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 ・読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。	【達成状況】 児童の肯定的回答 79.2% ・国語の授業に関連した本を、授業の際に紹介したり、児童が自由に読めるような環境づくりを行ったりすることで、読書意欲を高められるようにした。 ・低学年は、絵本の部屋で本を読む習慣が身に付くような指導を行った。 ・家読を年2回、9月からのブックリレー等を通して家庭読書の充実を図った。 B 【次年度の方針】 ・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のおアシスとしての環境づくり、蔵書の充実）。 ・「宮小本はともだちプロジェクト」の実践、家読（うちどく）の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。 ・朝の読書15分間の充実、担任による読み聞かせなど、本に親しむ機会を増やすとともに様々な活動で図書室を有効に活用する。 ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 ・読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。 ・けやき読書週間中は、朝の学習を読書、また、家庭学習で読書の宿題を出し、集中して読書に取り組む。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度は、宇都宮市共通の質問25個のうち12個が新しくなり、学校独自の質問4個のうち1個を新しくした。そこで、「継続質問は肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上増加、新設質問は肯定的回答割合が95%以上」を取組の成果が認められ高い評価を得ることができたと判断した。一方、「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上減少、または、継続・新設にかかわらず肯定的回答割合が80%未満」を取組の成果が十分ではなく、次年度の課題であると判断した。
- ・本校児童は、毎日を明るく元気に過ごし、友達とも仲良く過ごしている。A2「児童は、思いやりの心をもっている。」A17「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」は、児童・保護者・地域住民・教職員ともに評価が高く、このことから児童は学校生活に満足しており保護者も児童の思いを感じ取っていることが伺える。
- ・様々な場面で努力している児童を認め励ます教育の推進として、自分のよさやいろいろな力を伸ばそうとしている児童を表彰する「キラリ賞」を設定した。表彰内容は知・徳・体のバランスを考えながら決定し、各学級から推薦された児童を年7回全校児童の前で表彰するとともに写真を掲示している。日常の様々な活動においても、児童のよさや頑張りを認め励ます言葉掛けを積極的に行い、自己肯定感を高めるとともに他の児童の意欲向上につながるよう取組を進めてきた。
- ・今年度は、「自分の思いや考えをもち、伝え合い学び合うことができる児童の育成」を重点目標として学習指導に取り組んできた。落ち着いた態度で授業に臨み、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組むことができる児童が増えている。A1「児童は、進んで学習に取り組んでいる。」でも高い評価を得ることができ、取組の成果が表れていると言える。しかし、基礎学力の定着においては、個人差が見られ、高学年になるにつれその差は大きくなる傾向がある。算数の基礎基本の定着を目指す「ステップアップタイム」の取組や、「かがやきルーム」における個別指導は一定の成果が上がってきているので、今年度の取組を継続するとともにさらに工夫を図りたい。
- ・数値指標を下回った質問は、A10「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」とB4「児童は本を読んでいる。」の2つである。ともに、児童の肯定的回答割合を数値指標としたが、1%ほど足りなかった。本年度の取組をさらに継続・充実させていきたい。また、A10・B4とも教職員の評価は高いが、保護者の評価が児童よりも低いところも課題である。

ICT機器については、学習効果を上げるために書画カメラや大型テレビで資料を提示したり、調べ学習においてパソコンや図書資料で情報収集したりするなど活用を図っている。この活動を、授業参観や学年だより・ホームページなどで情報発信し、保護者の理解を得られるようにしたい。

読書については、朝の読書の時間に集中して本を読むだけでなく、短時間でも時間を見つけて進んで本を読む姿も見られるなど、学校では進んで読書に取り組む児童が多い。家庭においても読書の充実を図れるよう保護者と連携した取組を継続していきたい。

- 「宮の原あいさつ運動」は、今年度も「まちづくり推進協議会」を中心とした地域の方々や一条中学校生徒会の協力を得て、児童会代表委員会を中心に全校体制で積極的に取り組んできた。あいさつの習慣が身に付いてきており、地域の方々からは直接お褒めの言葉をいただくなど成果が表れている。A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答割合をみても、保護者は昨年度とほぼ同程度だったが、児童・地域住民・教職員は肯定的回答の割合が増えており、児童の意識の高まりと実践する姿が認められていると判断することができる。
- ・今年度も、保護者・地域の方々との連携を図り協力や支援を得て、充実した学校行事や体験活動などを実施することができた。A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」は、児童・保護者・地域住民・教職員ともに非常に高い評価を得ることができた。ミシン・栽培・そろばんなどの学習ボランティア、読み聞かせや図書ボランティア、掲示物の制作・花壇の手入れ・除草・落ち葉掃きなどの環境整備ボランティア、登下校や自習時間の安全を見守ってくださるボランティアなど、多くの方々の支援を得て、楽しく安全で充実した学校生活を送ることができた。

しかし、図書ボランティアのように児童の見えないところで活動を進めてくださっている方々には、児童が感謝しにくい面もあるので、図書委員会などとタイアップしてボランティア活動を可視化することも考えていきたい。

7 学校関係者評価

- ・全体アンケートの結果を見ると全体的に高い評価が得られており、教職員の努力の成果が表れている。地域協議会が教職員の頑張りを認めていたことを是非全教職員に伝えていただきたい。そうすることで、教職員がさらに自信をもって意欲的に教育に当たっていただけるであろう。
 - ・今年度質問の多くが変わったが、評価したい項目がなくなったり難解な語句が使われたりしているなど、その意図が分かりにくいものがある。
 - ・「持続可能な社会」という評価項目があるが、身近なところから地球環境にまで目を向けるような教育を進めていかなければ目標を達成することは難しい。
 - ・子供が家庭でも読書をするようにするには、まず大人が読書に親しむ姿を見せることではないか。読書に限らず、何事においてもまず大人自らが実行することが大切である。
 - ・子供たちに興味関心が高いゲームや動画配信サイト等が簡単に楽しむことができる環境の中では、子供たちが本に目を向けることは少ない。まず、動画配信サイト等に触れる時間を見直したり約束を作ったりすることから取り組みたい。
 - ・ＩＴ機器など、大人は取扱説明書がないと使うことができないが、今の子供たちはすぐに使い始め、使いながら操作方法を理解しすぐに使いこなせるようになっていく。この能力は未来を生きる子供たちにとっては大切な力であることを考えると、ＩＴ機器に触れることを一概に制限したり否定したりすることはできない。
 - ・低学年の子供たちに読書に興味をもたせるには、本校で取り組んでいる「ブックリレー」のような親子での読み聞かせが有効である。
 - ・体力に低下が心配されているが本校の状況はどうか。
- ⇒本校児童の体力は全国や県の平均と比較からすると、決して高いとは言えない。また、運動や外遊びへの取組状況は個人差が大きい傾向が見られる。教科体育において体力や運動能力の向上が図れるよう指導を工夫している。また、学校園共通の水泳や跳び箱などの「かんぱりカード」を作り活用することで、小学校から中学校につながる指導も心掛けている。
- ・地域の子供たちは小学生も中学生もあいさつがよくできている。高校生になるとできないことがあるが、声を掛けるとしっかりあいさつができるようになる。
 - ・地域に設置されたあいさつ標語の看板が安全確認の死角になり、危険なところがある。何年も前に設置されたものであるから撤去してはどうか。
 - ・ボランティアに対して、教員や児童から丁重な感謝の手紙等があり大変感激している。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校経営】

- ・今年度と同様に、学校教育目標を具現化するために「宮小けやきプラン」を策定し、学習・学校行事・日常生活・家庭や地域との連携の場など、様々な場面で具体的な取組を推進し、「本気で学ぶ子・元気で遊ぶ子・正しく生きる子・喜んで働く子」の育成を目指していきたい。
- ・次年度も各種たよりの発行や学校ホームページ等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくとともに家庭や地域と連携を図り協力や支援を得られるように努めていきたい。

【学習指導】

- ・校内研修を通して重点目標の共通理解を図り、オープン研修で授業の実践・公開をするとともに自己研修に積極的に取り組み、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていきたい。また、少人数指導により、個に応じて効果的な指導が行えるよう、児童の特性を踏まえた指導の在り方や分かる授業の展開など授業の改善に努めていきたい。
- ・今後も読書の質の深化が図れるよう、図書室利用の工夫や読書指導、選書支援等を実施し、本に親しませる機会を多く設けていくようにする。
- ・家庭学習への取組は一定の成果を上げることができたので、さらに意欲の向上を図り学習内容の質の向上を目指すことができるような指導法などを工夫していきたい。

【児童指導】

- ・次年度も、全教職員の重点目標の共有化を図り、報告・連絡・相談を徹底し組織的な児童指導に取り組むとともに、家庭や地域とも連携を図っていきたい。
- ・児童一人一人の特性に対応できるよう、個に応じた継続的な指導や支援に努める。

○次年度も地域学校園や地域・保護者と連携したあいさつ運動などの取り組みを継続し、明るいあいさつの輪を広げてさらなる定着を図っていきたい。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・「元気っ子健康体力チェックの結果をもとに、教科体育において十分な運動量を確保するとともに指導法を工夫し、個々の運動への関心を高めるとともに体力の向上に努める。

○水泳や縄跳びなどのがんばりカードの活用や健康教育・食育に係わる便りの発行やイベントの実施など地域学校園共通の取組を次年度も継続させていく。